

平成30年度 自己評価

こども広場あんり

平成 31 年 1 月 31 日

	評価項目	目標設定の理由	取り組み状況	結果 (%)			
				A	B	C	D
1	乳幼児の活動がより豊かになるように、活動の展開に応じて環境の構成をする	乳幼児の成長にとり、実体験が大切である。その体験が豊かになるためには、乳幼児が見たい・知りたい・やりたいと思える環境構成が必要である。 自発的な活動としての遊びを生み出すために必要な環境を整える。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの発達や興味に合わせてコーナーを設定したり、玩具を用意したり、環境構成を行った。 自発的な活動としての遊びを生み出すための環境のひとつとして制作コーナーには、表現の為道具や廃材などの素材を常に用意することができた。 	5	62	33	
2	3歳以上児 指導計画は、マンネリ化しないように見直しを行い、乳幼児の状況の変化に対応する。	長いスパンで繰り広げられる保育を展開する中で、乳幼児の実態を見て、状況にあった充実した保育の展開をしていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> 季節を感じたり行事を楽しみにしたりするような活動を取り入れている。しかし子どもの姿に応じての保育が長いスパンの中で繰り広げられているかという点ではまだ課題とするところがある。 未満児の保育では個別計画を丁寧に立てて一人ひとりの発達をみていくことができている。 		62	38	
	3歳未満児 個別計画が適切に立てられているか。						
3	保育の流れや乳幼児の事など、常に保育者同士話し合い、情報の共有をする。	乳幼児の姿は一人ひとり異なる。また、乳幼児の見せる姿やそのとらえ方は、保育教諭により異なる。保育教諭間意見を交換し、多面的に幼児を捉えることが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> クラス・学年・園全体で連携を密にとり保育にあたってきた。 園で行ったECEQ公開保育を通して、保育者間で意見交換をする機会を多く持つことができ、その後も保育者間で話し合うことが増えた。 	48	33	19	
4	各自が保育教諭としての良識を大切に、能力を高めるよう努める	保育教諭としてふさわしい態度を身に付けると共に、専門的知識を得る機会に積極的に参加することにより、社会人としてレベルアップを図りたい。	<ul style="list-style-type: none"> 園内外の研修参加機会も多く、スキルアップに努めている。 研修等で学んだ事を保育の場で少しずつは取り入れているが、活かしきれてはいない。 自身が学んだことを周りの保育者にも今後伝えていきたい。 		48	48	4
5	地域や社会とのかかわり	認定こども園に求められる社会的ニーズの変化に対応し、地域に根ざす園づくりについて考えていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> 個人として、地域の方への挨拶や気持ち良い対応を心がけている。 地域との交流という面では、年長児は交流機会も多いが他学年は少ないので、園全体として地域とつながっていく活動をさらに増やしていきたい。 		38	38	24
6	保護者のニーズの把握に努め要望や苦情に適切に対応できる体制をつくる。	乳幼児の育ちの背景にある家庭の姿に迫るためには、さらに保護者との緊密な連携が必要となる。保護者の思いを受け止める体制をつくると共に、乳幼児のより良い育ちに向けて、共に学ぶ姿勢づくりを考える。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者とのコミュニケーションを大切に信頼関係を築いていけるように心がけている。 小さな意見にも耳を傾け、それに対して改善できるところは改善し、し難いことについては丁寧に説明するようにしている。 第三者委員を配置し、苦情に適切に対応する体制を整えている。 		62	24	14